



学院史編纂室便り

No. 37
2013年6月20日
関西学院 学院史編纂室

★『関西学院史紀要』第19号発行

3月25日に『関西学院史紀要』第19号を発行しました。当紀要は「関西学院リポジトリ」に登録されていますが、印刷物をご希望の場合は学院史編纂室までご連絡ください(創刊号、2号、12号、13号は在庫なし)。

【論 文】	木村善永研究ノート—その生涯と事績 松本卓夫と朝鮮半島 ロリニャルから世界へ—カナダ東部におけるベーツ院長関係地訪問—	室田 保夫 洪 伊杓 池田 裕子
【記 録】	第36回 関西学院史研究月例会 Mastery for Service 100年 マスタリー・フォア・サービス提唱の歴史 マスタリー・フォア・サービスの今日的意味	井上 琢智 ルース・M・グラーベル
【資 料】	村上博輔日記抄(12) 【学院史編纂室共同研究報告】	神田 健次、福井 幸男

★アルマン・デメストラルさん(ベーツ院長ご令孫)の来訪

マギル大学名誉教授アルマン・デメストラルさん(写真:福田靖弘初等部校長と)が法学部客員教授として4月5日から30日まで来日されました。法学部や国際学部での講義の他、初等部と中学部のチャペルでお祖父様の思い出をお話してくださいました。さらに初等部では5・6年生対象にカナダの話をされました。子どもたちから英語や日本語で活発に質問が出たことに驚かれたアルマンさんは「関西学院の未来は明るいですね」と感想を洩らされました。この他、茶道部の茶室や体育会同窓倶楽部有志による会に招かれ、交流を楽しまれました。



★旧院長室の公開

上ヶ原移転後の1929年(C. J. L. ベーツ院長)から2003年(山内一郎院長)まで使われていた旧院長室を公開して欲しいとの卒業生の要望を受け、4月27日に開催された同窓会総会の折り、同窓会高槻・島本支部の方々を旧院長室とベーツ館にご案内しました。旧院長室ではベーツ院長にまつわる品々を当室の池田裕子が、ベーツ館ではヴォーリス建築の特徴を大学図書館の山崎富美子さんが説明しました。ちょうど来日中だったアルマンさんが山内元院長と共に旧院長室で卒業生を歓迎されました。



★神戸文学館と神戸市立小磯記念美術館で特別展開催

既に『母校通信』、『Museum News』、創立125周年記念事業委員会のウェブサイト等で紹介されていますが、本年7月以降標記2館で開催される特別展は関西学院の歴史をテーマにしています。本学所蔵品が展示される他、関係者による講演会やロビーコンサート、ワークショップ等も予定されています。神戸市立小磯記念美術館では、教職員証、学生証、『母校通信』第131号の提示により団体料金(2割引)で入館できます。休館日、開館時間等、各館のウェブサイト等でご確認の上、ぜひ足をお運びください。

なお、神戸市立小磯記念美術館学芸員金井紀子さんが本号にご寄稿くださっています。2~5頁をご覧ください。



原田の森門とランチ メモリアルチャペル(現:神戸文学館)

神戸文学館	特別展「原田の森の青春譜—神戸の近代化と関西学院—」	【入館無料】
	7月1日~9月16日: I部「誕生」	
	9月28日~12月24日: II部「躍動」	
神戸市立小磯記念美術館	特別展「関西学院の美術家~知られざる神戸モダニズム~」	
	7月20日~10月6日	【一般入館料:大人1,000円】

★小冊子 *How the Churchill Trophy Came to the World* 作成とチャーチル書簡の寄贈

芦塚英子さん(文学昭38、院修教昭43、元ESS)のご協力により、前号に掲載した「チャーチル杯創設の経緯～ケンブリッジ大学チャーチル・カレッジの資料から～」(神埼高明経済学部教授)の英訳「How the Churchill Trophy Came to the World」が完成しました。小冊子にまとめ、時計台(西宮上ヶ原キャンパス)1階ロビーにて配布していますが、学院史編纂室のウェブサイト(日本語・英語)からもご覧いただけます。

また、掲載時行方不明だったチャーチルの署名入り書簡が加藤秀次郎第8代院長のご次男加藤千秋さん(法学昭34 高等昭30)のお宅で見つかり、4月15日、加藤さんから井上琢智学長に寄贈されました。本書簡は当室にて保管しています。



★吉岡美国第2代院長愛用トランクの寄贈

昨年6月13日、吉岡院長ご長男吉岡美清さんのご長女岡田陽子さんと次女庄ノ敬子さんが、それぞれのご子息(岡田義行さんご夫妻と庄ノ弘英さん)と共に関西学院を訪問されたことを前々号にて紹介しました。その時話題になった遺品(トランクと掛軸)を持って3月8日午後、岡田善行さんご夫妻が井上琢智学長をお訪ねになりました。どちらも孫の陽子さんご結婚の際、お祖父様が持たせてくださったものだそうです。ご寄贈いただいたトランク(本人によるイニシャル入り)は、第一次大戦勃発時、ヨーロッパ訪問中だった吉岡院長が急遽帰国することになり、ロンドンで入手されたものと思われます。現在、学長室にて来客者にお披露目中です。

★ラトビアからの苗木定植



原田の森時代の関西学院で英語を教えていたラトビア人青年イアン・オゾリンを記念し、ラトビア共和国のペーテリス・ヴァイヴァルス駐日大使から2011年10月にご寄贈いただいた苗木の定植式が2月22日に執り行われました。苗木(オーク2本、シラカバ2本)は、ヴァイヴァルス大使、多賀敏行駐ラトビア日本大使、ルース・グルーベル院長、井上琢智学長の手により、文学部裏の記念プレート近くに植えられました。現在は、可愛い葉を広げ、すくすく成長しています。

★訃報:シェリー・メッサースミスさん

昨年11月22日早朝、メリーランド州シルバースプリングのご自宅で胸の痛みを訴えられたシェリー・メッサースミス(Margarita Park Sherertz Messersmith)さん(写真右、左は従姉妹のジーン・ルイスさん)は、搬送先の病院で息を引き取られました。81歳でした。

シェリーさんのお祖母様は関西学院を創立した W. R. ランバスの妹ノラ・パークで、ご自身も宣教師をされていたご両親の赴任地蘇州でお生まれになりました。ご自宅は蘇州大学正門の直ぐそばだったそうです。2004年のランバス生誕150年記念式典には、鳥類学者のご主人ダンさんと共にご出席くださいました。

ダンさんによると、お二人は今年のランバス・デイ(毎年10月第一木曜日にパールリバー・チャーチにて開催)への出席を考えておられたそうです。関西学院同窓会が出席を計画していること、ランバス家の記念碑と墓の整備費用として関西学院から1,000ドルの小切手を送付したことをお知らせすると大変喜ばれました。



★訃報:フランシス・ブレイさん



本年1月23日朝、カリフォルニア州クレアモントでフランシス・ブレイ(Frances Bray)さんがお亡くなりになりました。前年12月13日に97歳の誕生日を迎えられたフランシスさんは、年明けから呼吸困難の症状が強くなっておられたそうです。

フランシスさんは神学部におられたブレイ教授夫人として知られるだけでなく、大学図書館の洋書目録作成やランバス研究の分野でも大きな足跡を残されました。3月19日、ご子息ジム・ブレイさんをご家族と共に関西学院を訪問され、思い出を辿られました。

学院史編纂室便り No. 37 (2013年6月20日)

関西学院 学院史編纂室 662-8501 西宮上ヶ原一番町 1-155

Phone: 0798-54-6022 Fax: 0798-54-6462

<http://www.kwansei.ac.jp/gakuinshi/ARCHIVES.htm>